

解 答

1 (A)	2 (B)	3 (B)	4 (C)	5 (C)	6 (A)
7 (A)	8 (C)	9 (D)	10 (C)	11 (D)	12 (B)
13 (A)	14 (B)	15 (D)	16 (D)	17 (D)	18 (C)
19 (B)	20 (D)				

1. 「その会議は予定通り6月に開催されるだろう」

▶ 選択肢の品詞はそれぞれ、(A)as[接続詞]、(B)for[前置詞]、(C)like[接続詞]、(D)just[副詞]である。空欄のあとは動詞plannedが続くので、節をつなぐ接続詞が候補になる。asを接続詞として用いて、as it is plannedのit isが省略された形としてas plannedという言い方ができる。(C)のlikeも似たような接続詞の使い方ができるが、一般的には能動態の文が接続し、さらに上記のasのような省略を伴った使い方はしないので注意が必要。

2. 「その会社の驚くべき成長の秘密は何でしょうか？」

▶ 問題文にthe company's incredible growthとあることから、(B)のsecretか(C)のreasonに絞ることができる。空所直後のofに注目すると、reasonなら前置詞はforなので、正解は(B)と判断できる。(A)solution「解決、解決策」、(D)question「質問、疑問」。

3. 「科学者たちはアマゾン河流域には新薬の原料となりうる植物があると考えている」

▶ 空欄の直前に前置詞fromがあることから、関係代名詞の(A)whatや(C)thatは用いることができない。(D)theseもfromの前にandなどの接続詞がないので文法的に正しい文とならない。from whichとすれば、plants in the Amazon areaを先行詞とした正しい文になる。

■ 前置詞 + 関係代名詞

関係代名詞が前置詞の目的語の場合、文末にあるべき前置詞が関係代名詞とセットで前に移動することがある。

He is the actor who(m) Ann sent a fan letter to.

→ He is the actor to whom Ann sent a fan letter.

(彼は、アンがファンレターを送った俳優だ。)

本問はfromを文末に置いて、問題文を以下のように書き換えることができる。

Scientists think there are plants in the Amazon area which new drugs can be made from.

4. 「幼かったころ、私は両親や教師をひどくいらいらさせたに違いない。私は『なぜ?』とばかり尋ねていた」

▶ 第1文でwhen I was littleと過去形であるので、(A)と(B)は現在形であるので不適切。また、(D)have drivenは現在完了形なので過去を表す表現(when I was ...)と一緒に使えない。よって残った(C)が正解である。

▶ 過去の事柄に関して述べている文でることを手がかりに考えると、過去の出来事を現在の立場で推量するmust have + 過去分詞「～したにちがいない」を用いるのが適切。

□ **drive** ~「～を(…の状態に)する/追いやる」

▶ **drive A to do** 「Aに～させる」 / **drive A into B** 「AをBの状態に追いやる」 も押さえておこう。

Hunger **drove** him to steal[into stealing].

(空腹に駆られて彼は盗みをした。)

□ **must have done** 「～したにちがいない/～だったに違いない」

▶ 過去のことに対する現在の『確信のある推量』を表す。

The grass is wet; it **must have rained** last night.

(草がぬれている。昨夜雨が降ったに違いない。)

5. 「ジムは素晴らしい記憶力を持っているので、たった一度聞いただけで詩を復誦できる」
- ▶ 直後に a poem という目的語がきているので、空欄には他動詞が入ると推測できる。(B)talk, (D)speak には他動詞の用法もあるが、「～について話す」という場合は, talk about ~, speak about ~などのように使う。残る2つを問題文の意味から判断すると, (C)recite「～を暗誦する」が最適である。
- such(+ a)(+ 形容詞)+ 名詞 + that ~「とても…なので～」
- ▶ so...(that)~と同じ意味である。ただし, soの後には形容詞または副詞が, such の後には名詞がくることに注意。
- It was such a lovely day that everybody felt like going for a walk.*
(とても天気が良い日だったので、誰もが散歩に出かけたい気分だった。)
6. 「エジプトの歴史についてはビルに尋ねてはどうですか？彼はその分野に関して我々の誰よりも詳しいです」
- ▶ ask は、通例 ask A(人) about B(事柄)の構文を取る。of を用いることもあるが, ask a question[favor] of A(人)の場合だけである。
- [例] *She asked me about my school life.*
(彼女は私の学校生活について質問した。)
- ask a favor of A 「Aに頼みごとをする」 (= ask A a favor)
- May I ask a very special favor of you?*
(折り入ってお願ひしたいことがあるのですが。)
7. 「スティーブ、次の日曜日空いている時間はある？君が会議に参加してくれれば、大きな違いが生まれるだろう」
- ▶ 選択肢はすべて前置詞であるので、空欄前後にあるキーワードや前置詞のもつ意味から適切な選択肢を選ぶ。participation in ~で「～に参加すること」という表現になる。
- [例] *participation in [^to] politics* (政治への参与)
- participate in ~「～に参加する」 (= take part in ~/join in ~)
- Everyone in the class is expected to participate in these discussions.*
(クラス全員がその議論に参加しなければならない。)
8. 「スザンには、本当に料理の才能がある」
- ▶ talent を用いて「～の才能」という場合、前置詞は for を用いる。
- [例] *She has a talent [has no talent] for figures.*
(彼女は計算の才能がある[ない]。)
9. 「全ての評論家が素晴らしい論評を書いていた。コンサートは大成功であった」
- ▶ 空欄の前に, a great と「冠詞 + 形容詞」があるので、空欄には名詞が入ると推測できる。選択肢の中の唯一の名詞, (D)success「成功」を入れるのが最適である。success は元来、抽象名詞だが, great のような種類を限定する働きをする形容詞で修飾されると可算名詞化する。なお, (A)は形容詞, (B)は動詞, (C)は限定用法の形容詞である。
- [例] *Thank you for your many kindnesses.* ➡ your で限定されて可算名詞化
(いろいろ親切にしてくださってありがとう。)
10. 「私の上司は頼りになる助手を探している。というのも、前任者は當てにならなかっただ」
- ▶ 選択肢はすべて群動詞であるから、問題文の意味から考える。count on[upon] ~ で「～に頼る」という意になる。
- [例] *You are always counting on him to help you.*
(君はいつも彼の助けを当てにしてばかりいる。)
- その他の選択肢は, (A)stand for ~「～を意味する(=mean)」, (B)find out「探し出す/調べる」, (D)catch up ~「～に追いつく」という意味である。

「(Bを)Aに頼る/当てにする」の同意表現			
<input type="checkbox"/> depend on[upon] A (for B)	<input type="checkbox"/> rely on[upon] A (for B)		
<input type="checkbox"/> count on[upon] A (for B)	<input type="checkbox"/> turn[look] to A (for B)		
→これらのonは『依存』を表している。			

11. 「ミホコはもう少しで50歳だけれども、35歳ぐらいに見える」

- ▶ 空欄のあと約のabout thirty fiveは「およそ35歳」という意味。数詞は形容詞として用いられるので、空欄には自動詞が入る。よって唯一の自動詞である(D)looksが正解である。また、文意より選んでも「(外見が)～のように見える」場合はlookを用いるので(D)が正解。

その他の選択肢は、(A)suggest「～を提案する」、(B)resemble「～に似ている」、(C)see「～を見る」という意味の他動詞である。

12. 「今朝は晴れていたのに、今は激しい雷雨だ。近頃の天気を予測するのは不可能だ」

- ▶ 選択肢はすべて他動詞であるから、文意から判断する。第1文で天気の変化が急激であることを述べていることから、(B)predict「～を予測する」が最適である。

「Aは～することができる[できない]」の表現
<input type="checkbox"/> A is able[unable] to do——A(主語)は『人』
<input type="checkbox"/> A is capable[incapable] of doing——A(主語)は『人』『物』
<input type="checkbox"/> It is possible[impossible] for A to do——『人』を主語にしない She is (un)able to teach French. = She is (in)capable of teaching French. = It is (im)possible for her to teach French. (彼女はフランス語を教えることができる[できない]。)

13. 「これまで常に携帯電話を持っていた人たちは、それなしの生活にいったいどのようにして順応するのだろうか？」

- ▶ 選択肢はすべて他動詞であるので、文意や空欄前後の要素を中心に考える。空欄後にthemselves to lifeとあるので(A)adaptを選べば、adapt oneself to ~(=adapt to ~)で「～に順応する」という表現になる。

[例] Try to adapt yourself to any situation.

(どんな状況にも順応できるようにしなさい。)

その他は、(B)accept「～を受け取る」、(C)change「～を変える」、(D)manage「～をうまく取り扱う」という意味である。

adapt to ~「(環境など)に順応[適応]する」 (= adjust to ~)

It is not always easy for some new students to adapt[adjust] to the busy life at university.

(一部の新入生にとっては、大学での忙しい生活に順応するのが必ずしも簡単というわけではない。)

▶ adapt A to B「AをBに順応[適応]させる」

adapt oneself to ~ = adapt to ~「～に順応[適応]する」

▶ つづりの紛らわしい語adoptは「～を採用する」の意味。

14. 「私はテストでかなり良い成績だった。ミスをたくさんはしなかったからだ」

- ▶ 選択肢はすべて名詞であるから、文意より最適なものを選ぶ方針で解く。テストなどの誤答という意味での「間違い」はa mistakeである。(A)wrong「不正、悪事」、(C)problem「問題」、(D)fault「(誤り・落ち度の)責任、欠陥」。

■ [類語比較] mistakeとerror

mistakeは不注意や勘違いによる「間違い」の意。errorは計算による誤りや裁判の誤審など合理的な基準や正解からはずれた「間違い」のことだが、両語は交換可能である場合も多い。

Be careful not to make the same mistake[error] again.

(二度と同じ誤りをしないように注意しなさい。)

15. 「松井秀喜はとても人気があるので地元では彼の栄誉を讃えて、像を建てる計画をしている」

- ▶ 前問と同様に、選択肢がすべて名詞であるので文意より最適な語を選ぶ必要がある。松井選手の銅像が建つのは、野球選手としての活躍があったためであるから、(D)honor「名誉、名声」を選べば、in one's honor「～に敬意を表して/～を祝[記念]して」(= in honor of A)というふさわしい表現になる。

[例] The president held a dinner *in honor of* the king.

(大統領は国王に敬意を表して晩さん会を催した。)

その他は、(A)respect「尊敬」、(B)glory「栄光」、(C)fame「名声」という意味。

16. 「ときどき、週末勤務が要求されたにも関わらず、ステファニーは昇進を受け入れた」

- ▶ 選択肢がすべて意味の異なる動詞であるので、語法・文意を考えながら正解を選ぶ。文意から選ぶと、(B)obligeと(D)requireが候補になるが、(動詞)+ her working となっていることに着目すると、SVO *doing*という語法をもつ動詞は(D)requireのみである。requireのあとのがherは、動名詞workingの意味上の主語を表す代名詞である。

他の選択肢は、(A)acquire「～を得る、～を獲得する」、(B)oblige「～に余儀なくさせる」、(C)provide「～を与える、～を供給する」という意味である。

17. 「私の父親はここ最近、まったく家にいない。というのも、新しい車デザインの責任を委ねられたからだ」

- ▶ 選択肢はすべて名詞なので文脈より判断する。give A the responsibility for ~で「Aに～の責任を委ねる」が受動態で用いられて、A is given the responsibility for ~の形になっていることに注意。他の選択肢は、(A)try「試み」、(B)effort「骨折り、奮闘」、(C)attempt「試み、企て」という意味。

18. 「今年、桜がこんなに遅く咲き始めるのはとても稀なことだ」

- ▶ 形式主語の構文。問題文の意味から判断すると、unusual「普通でない、異常な」が適切。その他は、(A)unknown「未知の、無名の」、(B)unsuitable「(…に)適していない」、(D)unable「(…することが)できない」。

形式主語のit

(1) **It is fun to meet new people.**

(初めての人と会うのは楽しい。)

(2) **It is important that you follow the rules.**

(規則に従うことは大切だ。)

不定詞句やthat節などが主語になる場合、形式上の主語itを文頭に置いて、眞の主語である不定詞句やthat節などを後に回すことが多い。(1)はto meet new peopleという不定詞句が眞の主語で、(2)はthat you follow the rulesというthat節が眞の主語である。

19. 「あなたは自分の部屋の掃除をしたと言っているが、今朝と大差がないように見えます」

- ▶ **much the same as** ~「～と大差のない」という慣用表現を用いる。

[例] The patient is *much the same as* yesterday.

(患者の容態はだいたい昨日と同じだ。)

20. 「すみません。この道はメトロポリタン美術館へ通じていますか？」

- ▶ 一般的に、現在分詞は「実際の行為や状態」を、to不定詞は「可能性のあること・これから先にすべきこと」について述べることになる。問題文では、美術館への道について聞いているのだから、現在の状態を表すleadingを用いた方が自然な英文になる。

[例] the nurse **taking care of** the baby [現在分詞]

(その赤ん坊の世話を(実際に)している乳母)

the nurse **to take care of** the baby [to不定詞]

(その赤ん坊の世話をしてくれる乳母)